

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600826		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームなごみ 1F		
所在地	北海道苫小牧市北星町2丁目29-30		
自己評価作成日	令和 3年 12月 31日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvCd=0173600826-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることを掲げています。この理念に基づき、できるだけ入居前から利用しているなじみの医療機関に通院同行しています。
 施設周辺は自然環境に恵まれていることから周辺を散策したり、畑作りや花壇作りで野菜や花の育成を楽しむことができます。建物裏手には東屋があり、季節を感じながら過ごせます。建物については、回廊式となっており見当識障害が強い方でも元の場所に安心して戻ることができます。また、トイレを3箇所設置しており(1か所は浴室からの出入り可能)、お身体の状態に合わせて利用していただくことができます。また、建物内部では飾り付けを工夫し季節感を感じることができるように工夫しています。
 認知症にとどまらず、知的障害や難病など様々な疾患を抱えた方の利用者の支援をご本人の体調に合わせてながら柔軟に支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は近隣に北星公園、錦大沼公園、キャンプ場と多くの自然環境に恵まれた苫小牧市郊外に位置する鉄筋コンクリート造2階建2ユニットの事業所である。また、近くに同法人が運営する「障害者支援施設」と「グループホームむつみ」があり、行事、災害対策などを連携して行い、事例を共有しながら質の高いケアに努めている。四方形の2階建て、吹き抜けの中庭の周囲に廊下があり、利用者の歩行訓練に利用している。共用空間は床暖房やエアコンを設備し生活の快適性や居心地の良い環境を整えている。コロナ禍により地域との交流は自粛しているが、町内会長とは密に連絡をしている。利用者の帰宅願望では他の要因を探る事も行い、生活上の役割や好きな趣味毎を支援した結果、落ち着いた生活に至るなどケアマネジメントやきめ細かい職員の支援によって効果を上げている。毎日の足むくみ体操の他、家事を通じた生活リハビリ、手先を使った作り物や塗り絵などで機能訓練を行っている。運営法人の様々なバックアップの下に新しく着任した管理者と職員が一丸となり利用者の生活を支えている事業所である

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町ここ苦小牧にて穏やかで健やかに生活していただけるように理念をスタッフ間で確認し共有できるように努めている。名札にて確認し、思い出せるようにしている	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を標榜し、事業所内要所へ掲示している。日々の支援で迷った場合は理念を拠り所にして話し合う機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ間は接触を控えているが、今後は地域と連携のため、交流するように努めていこうと考えている。今年度は行事の際に地域の方でハーモニカ演奏など少人数であるが、交流した	例年実施している地域交流は自粛中である。町内会長が社会福祉協議会便りを届けに来てくれた際に事業所の状況を伝えている。感染対策を講じつつ敬老会にハーモニカ奏者の演奏披露があり祝賀を盛り上げた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族の知人など認知症に関する悩みなどが出た際にはアドバイスなど実施している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は文書で実施することが多かったため、内部スタッフ間で話し合うことが多かったが結果等をサービス向上に生かしている	コロナ禍により参集にての会議を見送り文書にての開催である。事業所の状況、利用者の様子、感染症対策、身体拘束廃止委員会等について議事録に纏め会議メンバーと全家族へ送付している。	参集にての会議運営が難しい状況であるが、会議メンバーから率直な意見をもらいサービス向上に具体的に活かすことが重要である。事業所の実情や提供しているサービスの実際を伝え、理解と協力が得られ改善に向けた具体的な取り組みに資するような会議運営に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とお頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度の改正についてなど、その都度連絡を取り相談していた。計画作成担当についての配置基準についてなどで相談することがあった	市の担当者から制度上の案件について適宜意見を仰ぎ、適切な運営に資するよう努めている。また、総合福祉課とは障がい者を有する利用者の補装具利用給付で協働リクライニング式車椅子の提供に至った事例がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の実施の他、毎月のサービス会議にて身体拘束について資料等を活用しながら身体拘束についての話し合いを実施している	「身体拘束廃止に関する改善計画」を指針に定め、身体拘束廃止委員会を定期開催している。支援の実際の確認を含め、利用者の困り事に焦点を当て適切か否かを検証している。今年度は自己覚知やバイステックの7原則(ケースワークの基本的な作法)などを学ぶ機会を設けた。身体拘束適正化に係る内部研修は年2回の実施である。玄関の施錠は夜間帯のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束系の研修参加したスタッフより会議等で説明を行っている。事業所内でも知らず知らずのうちに不適切なケアを行っていないかなどその都度話し合っている		

グループホームなごみ 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員は後見人と話せる機会を設け、学べるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時については文書の他に理解していただけるように説明を行い対応している。改定についても重要事項説明書を用いながら説明し対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。その他は要望が言えるような関係づくりに努めている。	家族からは3回目ワクチン摂取の件や、補装具についての質問と希望を受け、適宜対応に努めている。利用者から外出や外食の要望を受けているが、コロナ禍の状況下で対応が難しい現状であることを利用者や家族に報告している。。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議、サービス会議などでその都度意見を反映できるように努めている。意見があった際には2Fユニットでも共有できるように努めている	今年度、職員への自己サービス評価を導入し、年2回の職員面談の定着に向けている。ホーム長は毎月のサービス会議にて職員の意見や提案を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。職員とは相談や意見を言いやすい関係構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間では各スタッフの要望に応じられるように努めている。給与水準については等級に応じて支給されるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ間で知識の伝達を行い、ユニットを超えて実施できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の介護保険サービス変更に伴った入退去の際に他事業者と交流する機会を持てるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時面談を実施・記録し本人の要望を改めて尋ねずり合わせを行っている。本人が安心してような声掛けを実施している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時面談を実施する際に同席して頂き、要望等を改めて聞きずり合わせを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の様子や生活などを伺い、その状態に合わせて支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの中でこれまで培った経験などを話して下さることでスタッフ側が学べることもある		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院やコミュニケーションなど家族とも協力しながら実施することで		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がなじみにしていた美容院など希望がある際には家族と協力しながら繋がりを保てるように努めている。医療機関についてもなじみのある場所であれば出来るだけ要望に応じられるように努めている	コロナ禍の為、家族との面会は玄関の窓越しで対応している。馴染みの医療機関へは通院受診している。理容師は訪問で対応しているが、馴染みになっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループになっている入居者の中の近くに孤立している方をお連れしスタッフが介することで会話ができるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった際には対応できるようにしている					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こだわりを大切にしている。認知症の進行に伴い希望を表現できなくなってくるが、その中でも家族などに生活歴などを確認しながら意向が把握できるようにしている。			発語が難しい場合でも利用者の表情を見て、快不快を見極め利用者にとって何が望ましいかを検討している。生活歴を把握し、これまでの生活習慣や好きだった事が継続できる支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみの配置やこだわりの物などを大切にし、入居前に利用していた住居なども把握するように努めている					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、その方に合わせた支援を行えるように努めている					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成できるよう担当者会議以外でも話し合いそこで出たアイデア等を採用している。また家族からも話を伺って介護計画を作成している			毎月のサービス会議で利用者カンファレンスを行い個々の全体像を分析して必要事項を検討している。モニタリングは利用者担当職員から聞き取りも行い評価している。利用者の意向や家族へ計画に対する意見を得ながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録など、その時の訴えなど様子が把握できるように記入を意識している					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に沿えるように入居者や家族の思いを伺いながら実施している					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ間は接触を控えているが、今後は町内会などの行事に参加できるように努めていきたい					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院前に家族に連絡を取り、今後の方針について事前に相談している。ご本人様が安心して通えるような医療機関への受診の援助を行っている。また、受診後は通院状況についての報告も行っている			入居前のかかりつけ医への受診が可能であり、定期受診は家族対応が基本であるが事業所でも通院支援を行っている。協力医療機関から電話対応で処方薬等の医療が受けられるなど、感染症対策に係る協力態勢も得ている。週に1度訪問看護師による健康観察が行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを利用し、1週間を通した利用者の様子について報告を行い相談できる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	感染症を勧奨し来院を極力控えてはいるが、その中で看護師や相談員に連絡をし、入院中の本人の様子を伺っている。日頃から医師・看護師・相談員との関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期におけるの事業所で出来る範囲については契約時より定期的に説明をしている。その中で都度状況に合わせた対応を行うことが出来るように努めている	利用契約時に重度化した場合の対応に係る指針を説明し同意を得ている。事業所でできる最大限の支援に取り組んでいる。時々の医師の見解により、家族を含め関係者間で今後の方針を検討している。移行先のメリットやデメリットも伝えて対応を協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制の構築を行い、救命救急の講習の資料を用いながら各スタッフにて共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し日頃からスタッフ間にて協議を行っている。火災については夜間想定・日中想定にて実施している	令和3年7月は火災・夜間想定での避難訓練を実施した。今年2月以降に地震・日中想定訓練を計画している。当法人他の施設にて災害備蓄品を確保している。自然災害発生時の業務継続計画(BCP)を策定中である。	新入職員も入り、通報・初期消火・避難経路の指導や確認の習得を得よう支援しているが、利用者の体調等の状態を踏まえた具体的な避難策を検討しながら、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう対策の強化をしていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声掛けや関わり合いを大切にしている。排泄介助時や交換の声掛け時も自尊心が損なわれないような声掛けを実施している	新人研修や身体拘束廃止委員会、サービス会議で資料を活用し学ぶ機会を確保している。会議内では確認や改善に向けた話し合いを適宜行っている。排泄の失敗などのデリケートな支援場面では自尊心に配慮した言葉がけにて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類更衣時に選択していただけるように声掛けを実施したりなど心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の体調に合わせてながら過ごして頂けるよう心掛け、ケアプランにも反映している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	雑誌や本人の好みを尋ねながらその方が望むおしゃれができるように支援している		

グループホームなごみ 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理は難しい状態だが、下膳やおしぼりたみなどの手伝いを出来る範囲で行って頂いている	外部委託の栄養管理された献立を活用し職員が調理を行い提供している。年1回嗜好調査を実施し利用者の好みを把握しており、現在は外食自粛中であるので、主に行事食等にて反映させている。利用者の誕生日に高齢者向けで食べやすいケーキやデザートを添えている。利用者は可能な範囲で食事作業に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できるよう声掛けを工夫しながら促している。食事については嗜好調査を行いながら希望や好みを伺っている。また、主治医への相談はその都度行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の有無に関わらず口腔ケアを実施しその方にあった方法を実施している。認知症の進行に伴い困難となった方などは口腔シートを利用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その都度本人の希望に応じてトイレに誘導し、行きたいときに行けるように配慮を行っている。排泄間隔を把握しそのタイミングで援助するようにしている	排泄チェック表とケース記録・サービス実施記録表に利用者個々の排泄状況を記している。個々の排尿パターンや時間誘導による支援の他に、排便では表情や仕草により兆候を掴み、トイレで排泄できるよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成時に配慮し、嚥下状態など主治医への相談を行いながら工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲で希望通りの時間に入浴が実現できるように配慮している。体調が優れない方に関しては清拭等の代替支援も行っている	週3回の入浴を支援し午前中を基本としている。入浴を拒む場合は、利用者と関わりを深めて前向きな気持ちに切り替わるまで待つなどして希望の時間帯へ移行している。入浴剤で色や香りを楽しみ職員との会話も特別なひととなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や希望に合わせて休息できるように援助を行っている。特に夜間は音に配慮し支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度薬情などの記録を確認しながらホーム長や服薬の担当者を中心に薬についての副作用の確認を徹底し、各スタッフも確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どのように過ごしたいのか伺い、入居前に行っていたことなどを確認しながら楽しく過ごせるようにしている		

グループホームなごみ 1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響により控えていたが、出来るだけ要望に応じて少人数で行ってきた。	コロナ禍により外出支援は控えられているが、緩和の時期に希望する選挙への同行支援を行ったり、気候の良い時期に事業所敷地内の散歩や東屋で外気浴をするなどを行った。冬場は医療機関への受診が主だった外出先となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて使っていたるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に自由に使用できるようにしている。手紙については代筆できるようにしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造としては中庭があり向こう側も見えるようになっている。季節感を取り入れた飾り付けを作成、ときには入居者と共に行いながら共に居心地よい空間づくりを実施している。	玄関に体温検知器を設置し感染対策を講じている。内玄関にベンチがあり、又ガラス戸仕様で開放感がある。内部は回廊式で閉塞感を感じさせず、歩行訓練に活用でき。床は床暖房を設備している。中庭には野菜や花のプランターがある。全体的に清掃が行き届き清潔感がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす時間と他入居者と過ごせる時間を大切にしている。席についても工夫をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は備えつきとなっているが、ご本人の使い慣れた拘りのものなどがあれば使用していただけるようになっており、過ごしやすい環境を整えることが出来るようになっている	居室内には介護用ベッド・クローゼット・洗面台・タンス・テレビ・ナースコール・カーテンや照明、床暖等が備え付けであり家族等の負担軽減にもなる充実した設備である。利用者の馴染みのものや大切にしている品々が持ち込まれている。利用者が混乱なく安心して過ごせるように環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室に名札を設置し、分かりやすいようにしている。また、構造が回廊式となっているため、トイレの位置が把握しやすくなっている他、徘徊行為があっても元の場所に戻る事ができるため、不安が軽減する			